

課題対応取組み報告書

名称

城東区地域包括支援センター

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設（居場所づくり等）
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
	<input type="checkbox"/> その他（ ）	
活動テーマ	我がごととして考え、地域住民と専門職がつながりあえるまちづくり	
地域ケア会議から 見えてきた課題	①認知症により金銭管理問題を抱えるケース ②精神疾患等で病識がなく近隣トラブルとなるケース ③支援拒否が強く支援に時間を要し苦慮するケース ④同居家族がさまざまな問題（経済困窮、孤立、虐待疑い、強いこだわりなど）を抱え、深刻化、複雑化するケース	
対象	地域住民・民生委員・医療や介護の専門職	
地域特性	【榎並地域・成育地域・聖賢地域・鯉江地域】町会に加入率が高く、古くから地域活動に参加している（していたも含む）高齢者は地域による見守り活動により支援につながりやすい。また、家族が近隣にすんでい町会未加入のワンルームマンションや古い連棟やアパートも残っており、地域とのつながりを持たないひとり暮らし高齢者は孤立傾向が強い。区役所や警察署、年金事務所、都市銀行が多く立ち並ぶ地域であり、困りごと解決ができないひとり暮らし高齢者は公的機関等から、地域包括支援センターに相談が入る。	
活動目標	1) コロナ禍でつながりが減っている中で、地域で困りごとのある高齢者を早期に発見し支え合える体制づくり 2) 高齢者の認知症や8050問題をふまえて同居家族の発達障がいや知的障がい等の背景について、専門職だけでなく地域住人にも理解を求め、我がごととして考えられる地域共生社会を目指す。	
活動内容 (具体的取組み)	【地域住民や地域関係者への取組み】 ①総合相談窓口の周知として「城東区地域包括支援センターだより」を年3回発行し、圏域内の町会班回覧した。法人が発行する広報誌「ゆうゆう」を活用し、総合相談窓口の周知と高齢者虐待防止に関する周知啓発を行った。 ②榎並地域の配食型の食事サービス、鯉江アクションプラン会議、健康麻雀・スマホ相談会・百歳体操に出向き、地域福祉支援員、地域関係者や地域の高齢者と顔の見える関係づくりを行った。 ③地域ケアフォーラム「認知症になっても安心して暮らせることができるまちづくりをめざして」を開催した。 ④コロナ禍で閉じこもっている高齢者や健康に不安を抱えている高齢者が公的な機関とつながるきっかけづくりや介護予防・認知症予防の取組みとして、「ゆうゆうはつらつ教室」「認知症予防プログラム」の開催を、地域の専門職と協働して取組んだ。 ⑤コロナ禍でも可能な少人数の集まりやなにわ元気塾での認知症の理解・啓発活動、「遺言と成年後見」講演会を開催し、権利擁護について区民向けの取組みを行った。 【専門職や関係機関に対する取組み】 ①目的別の地域ケア会議を開催し、地域住民と相談機関（区役所高齢福祉担当やつながる場、保健福祉センター保健師、オレンジチーム、見守り相談室、生活自立支援相談窓口、障がい者基幹相談支援センター等）との連携をし、支援が円滑に行くための方向性の検討や地域課題に関する情報共有を行った。 ②ケアマネジャーを対象に介護予防ケアマネジメントに関して、ICFを活用し本人の強みを理解する研修を行った。高齢者虐待防止に関しては包括圏域内の実績を報告し、対応・連携に向け通報が最も多い職種であるケアマネジャーと意見交換を行った。 ③多職種研修会として「成年後見人による意思決定支援と身上保護」というテーマで、医療・介護の専門職と認知症の方の意思決定に関する課題を共有したうえで、企画から運営まで行った。また、精神疾患や発達障がいの方への対応として、区保健福祉センターと区内4包括等が課題を共有し、「高齢者に多い精神疾患と認知症」というテーマの研修会を開催した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①地域の高齢者に関して、コロナ禍で長期にわたる閉じこもりによるフレイル、心身機能の低下、加えて人間関係がさらに希薄になるなどの課題をふまえ、「ゆうゆうはつらつ教室」を通じて介護予防の取組みすることができた。これにより個別相談につながるケースや介護予防にさらなる関心を持たれる高齢者には週1回「ラジオ体操」を企画するなど、生活支援コーディネーターやオレンジチームと合同で開催し、ボランティアグループ（チームオレンジサポーター）として次年度につながった。 ②医療や介護、保健福祉に関わる専門職間で、互いに高齢者における認知症や精神疾患などの対応に関する課題を共有したうえで、認知症と意思決定というテーマの研修会、精神疾患や発達障がいの理解を目的とした研修会の企画開催ができた。コロナ禍の社会情勢を加味し、WEBを併用したハイブリッド形式の企画や集合形式での研修会を状況や人数制限するなどして行えた。	
今後の課題	①高齢者がいきいきと暮らしていくために、自助活動の重要性を認識していただく取組みとして介護予防・認知症予防の継続と、地域とのつながりの重要性、困った時に相談できる場所を知っておくこと、自分の老いを受入れ前もって準備しておく終活についてなど、自分ごととして考える機会を広めていきたい。 ②ケアマネジャーや相談支援職が、疲弊・バーンアウトしないためのストレスマネジメントに関する研修会の開催、専門相談窓口の役割を知る機会を設けるなど、高齢者支援の専門職間のさらなる連携とスキルアップを目指していきたい。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 5年 7月 12日 (水)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント	総合相談窓口の周知として「城東区地域包括支援センターだより」を発行や、榎並地域の配食型の食事サービス、鯉江アクションプラン会議、健康麻雀・スマホ相談会・百歳体操に出向き、地域福祉支援員、地域関係者や地域の高齢者と顔の見える関係づくりを行っており、コロナ禍でもなにわ元気塾での認知症の理解・啓発活動、「遺言と成年後見」講演会を開催し、権利擁護について区民向けの取組みを行っていた。 多職種研修会として「成年後見人による意思決定支援と身上保護」というテーマで、医療・介護の専門職と認知症の方の意思決定に関する課題を共有したうえで、企画から運営まで行い、精神疾患や発達障がいの方への対応として、区保健福祉センターと区内4包括等が課題を共有し、「高齢者に多い精神疾患と認知症」というテーマの研修会を開催等、良い取り組みである。	